Communication Bridge Management Owners Club

CBMOC会員様インタビュー Vol.7

東京・大阪・福岡。3拠点の各地にいらっしゃるお客様が、もっと他のお客様のことを知ることのできる機会をつくりたい！
という想いから、今号もCBMOC会員様のインタビューを掲載させていただきます。
今回は、神奈川県をはじめとした全国で事業を営む、株式会社日本消音研究所の代表取締役、荒尾純平様にインタビューしました。

◆プロフィール

お名前： 荒尾純平　社長歴：16年目
社長の趣味／休日の過ごし方：ゴルフ、心理学を勉強すること。最近では高校時代に軽音をやっていた影響もあり、ドラムをやっています。
座右の銘：「原則中心」「失敗はない、あるのはフィードバックだけ」

◆あなたの願掛けは

んーないかな。神頼みといったことはまったくしていないんですよね。誰かが自分の代わりにやってくれることはないし、自分がやらない限り、自分には返ってこないと思っているところがあります。

ただ、初詣は必ず行きますよ！「皆さんの幸せを見守ってください」と願いながら、お参りをしています。これまでずっと「誰にも頼らない」と思って生きてきました。それこそ昔は「黙って俺の言うことを聞いてろ！」って思っていたけれど、それではだめだということを学びました。今となっては「頼るべきことは社員に頼らなくてはいけない」と思っています。

【グッドサイクル】
1 関係の質：お互いに尊重し、一緒に考える
2 思考の質：気づきがある、面白い
3 行動の質：自分で考え、自発的に行動する
4 結果の質：成果が得られる
5 関係の質：信頼関係が深まる

◆これまでの経緯

日本消音研究所に入社し、初めは工場を手伝っていた時期もありましたが、営業を15年間経験しました。営業をしながら、お客様に満足してもらい続けることだけを考えていました。

社長になったきっかけは、ライバル会社と合弁の販売会社を創ったことです。その会社に自社の営業マンを転籍させました。この会社を設立した1年目にはライバル会社と組んで、六本木ヒルズや汐留・品川の再開発といった仕事をしていました。仕事が山のようにある状態で、売上も順調に伸びていました。そんなタイミングで、ライバル会社の社長が「そろそろ純平さんが会社を継げばいいんじゃない？」と提案してくれました。そこで、当時、社長を務めていた父親と話し合った結果、私が会社を継ぐことになりました。

社長に就任してから私は、会長が子会社に出社して不在ということもあり、自分のやり方で会社を変えていこうと思ったんです。これまで会長はトップダウン経営をしていたため、朝令暮改ばかり起きていました。その分、会長の存在が精神的な支柱だったところもありました。仕事に対しては厳しい人でしたね。しかし、根は優しい人だったんじゃないかと思います。だからこそ、逆に私は社員に対して、もっと自分たちで考えさせないといけないな、と感じるようになりました。

当時、私の一言をきっかけにして、社員に多額の賞与を支払っていました。しかし、経営がうまくいかず、合弁したライバル会社の社長から「消音は潰した方がいいんじゃない？」と言われました。その時、相手の会社の決算書を見せてもらい、同じ売上でありながら、その残る数字の大きな差を目の当たりにし、「この差は個人の差、つまり経営者の考えの差なんだ」と思いました。そこで初めて、経営者の考え以上に会社が成長することはない、ということを知ったんです。社員を守るため、給与や賞与を払うことが一番だと思っていましたが、そうではなく、会社をしっかりさせることが社員にとって優しいということなんだ、と気づくきっかけとなりました。

◆社員との関係の質を上げるために意識してやっていること

一番、重要にしていることは「ダメだしをしないこと」ですかね。今は私の理想的な組織づくりのため、ソリューションのセミナーで知った関係の質のGOODサイクル（左図）をとにかく回していくことを中心に置いています。私の理想の組織はアドラーが提唱した「勇気づけるチームづくり」でした。そのチームづくりの1つに「ヨイだし」というものがあります。私は基本的にダメだししかできないので、よいだしへの切り替えに苦労していますが、ダメだしをしない努力をしています。私自身、ダメだしをする回数が以前より減ってきていると感じていますね。

ヨイだしをするようになってから、社員がよく話をしてくれるようになり、話をする際も萎縮しなくなりました。役員に対してはダメだしをしていますが、その際は「ここでしか言わないから」と伝えています。しかし、「ここは良かった」「ここは役に立っている」と良いところも認めた上で、ダメだしをしていますよ。そのおかげもあってか、社員全員と気持ちが繋がっていることは感じていますし、私も社員たちが自分なりに一生懸命やっていることを理解しています。だからこそ、私も絶対に嘘を言うことはありません。そこは社員たちも信用してくれています。

◆会社概要

社名：株式会社日本消音研究所
代表者名：荒尾純平
業種：製造業・空調設備向け
　　消音装置の設計製造販売
本社所在地：神奈川県横浜市
従業員数：110名
MOC継続年数：3年目

株式会社 日本消音研究所

◆社員が育ったなあと感じたエピソード

いろいろありますが、去年の12月の部所長合宿で出てきた「心得」と「六則」かな。この合宿では、消音として大切にしたいイズムである心得、そして、その心得を形にするための行動規範である六則、というものを社員たちが自ら考えてくれました。私はその2つを作成する過程に全く関わっていないけれど、ものすごくいいと思っているんですよね。ぜひ社員には実践してほしいと思っていますし、この「心得」と「六則」が具現化されている人が社内にいたら素晴らしいと考えています。来年からは「THE消研パーソン」みたいな形で、部署ごとに体現できている人が誰か投票を行い、選ばれた人を表彰しようと思っています。経営方針発表会で全社員に発表しようかな、と考えている最中です！そこをフォーカスすれば、会社として何か1つでも変わる気がするんです。私が関わっていないところで、「心得」と「六則」の言葉がでてきたことが嬉しいですね。本質的なことをついていると思いますよ。今では毎朝、これを唱和しています。ただ、唱和しているとはいえ、全員が大切だと思ってくれているわけではないと思うけれど、「ここを目指していいこう！」という目標を創ってくれたことが嬉しかったです。

◆経営者になって一番大変だったこと

社長に就任した1年目が大変でした。それまで12億8000万あった売上が私が社長になった途端、9億にまで落ち込みました。しかし、赤字にするわけにはいかず、色々なものを削減し、それからはずっと10年以上黒字で経営することができました。私自身はどこかで「これからもなんとかできる」って思っていたんですけれど、数年前の36期・37期の時には、「もう俺にはできません」って思った時期がありました。

その時はとにかく、会社がうまくいかない今の状態を脱するには、「会社を一から創り直さないといけない」「土を耕さないといけない」と思いました。そこで、7つの習慣を導入しようと決意したのが2014年の夏頃でした。昔から7つの習慣の存在を知っていましたが、正直「うちの会社では無理だよな」と感じていたんです。ですが、ずっと「7つの習慣は正しい」という想いがありました。だからこそ、今、この会社はきちんと根を張り、人格を作り上げていかなければならないと思い、東西に分けて2日間のセミナーを実施しようと試みました。しかし、周りになかなか理解してもらえず、前日に「参加できません」と言われることもあり、セミナー開催時期を延期したりしました。そこで、半年間社内で業務時間を使用し、社員にワークを実践してもらいました。それでも「こんなのやっても意味がない」「理想論だ」という声もありましたが、その意見も受け入れ、それぞれの考え方によるものだと思うようになりました。気づいたら、実践する中で劇的に変化した社員もいるので、今となってはやってよかったと思っています！

◆経営者の仕事を一言で言うと？

「従業員とその家族が幸せな未来へ向かうことのできる器を創ること」
社員とその家族が安心して出勤できなければ、いい仕事はできないと考えています。これは大前提ですね。不幸せな人や人と交わらない人はいい仕事ができない、って思いますよ。私たちは社会に役立つ仕事をしているし、事業を継続永続させるためにも、全員が幸せでなければ永続は無意味ですね。自分の家族には敵わないかもしれないけれど、社員には「愛している」と伝えています。だからこそ、社員とその家族の誕生日に手紙とプレゼントを渡しているんですよ。今年で5年目になりますが、琉球グラス・はし・石鹸・米・グラス等を約290名に贈っています。ものだけでも嬉しくないでしょう？手紙が入っていることに意味があるので、私が直接包んでいます。これを始めたきっかけは、理念を明文化した際に「俺が幸せにしてやる！」と決意したことです。そこで「俺ができることはなんだろう？」と考えた時、誕生日のお祝いだと思ったんですよ。1回始めたことはやめられませんね（笑）

◆尊敬している人

身近な人で言えば、父親とライバル会社の社長ですね。父親はこの会社を創設してくれました。私は会社を継続して発展させることはできましたが、父親みたいに0から1を作ることはできないと思います。私自身は1を100にも1万にもできるけれど今は1が3になったくらいかな。1万目指してこれからもやりますよ。ライバル会社の社長は私に経営のことを教えくれた人です。私の中ではこの出会いがなければ、今の私はなかったと思っているんですよ。

◆担当の大村より一言

荒尾社長とは、出会ってから丸2年となります。社員様の成長を諦めず、信じて関わり続ける荒尾社長から、単なる雇用関係としての間柄ではなく、「人生を通して関わる」ということをその行動を持って感じております。大変深い愛情に溢れた経営者様です。

また、多趣味でやり始めたことはとことん突き詰め、様々な場所に出向き、ご自身を高め続けているお姿は、エネルギッシュでいつも刺激をいただいております！今後も社員様全員が手を取り合って、幸せな未来へ向かうことのできる組織を共に創ってまいりましょう！

◆MOC会員様に聞きたいこと・伝えたいこと

会員の皆さんは「CBM」と「関係の質の向上」が本当に大切である、とどのくらい思っているのでしょうか？私はここに集まっている皆さんは少なくとも「必要だ」と感じていると思うんですよね。そう思っている経営者の会社とそう思っていない経営者の会社、比べると全然違います。社員に「この2つが必要だ」と実感させることができるかどうかは社長の腕次第です。しかし、すでにその一歩が始まっているんですから、ソリューションと一緒に考え、これからを設計していくことは大切だと思いますよ。